

# 平成27年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

区名	天王寺区
学校名	大阪市立夕陽丘中学校
学校長名	福山 英利

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成27年4月21日（火）に、3年生を対象として、「教科（国語・数学・理科）に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科も含め、総合的に子どもの学力向上を目指しています。学校の現状や取組の参考にしていただきたいと思います。

## 1 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、生徒の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2 調査内容

### (1) 教科に関する調査（国語、数学、理科）

- ・主として「知識」に関する問題（A問題）
- ・主として「活用」に関する問題（B問題）
- ※ 理科については、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に出題

### (2) 質問紙調査

- ・生徒に対する調査
- ・学校に対する調査

## 3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の中学校第3学年の原則として全生徒
- ・夕陽丘中学校では、第3学年 163名

## 平成27年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語A問題、数学A問題、B問題及び理科については全国の平均正答率を上回っているが、国語B問題ではやや下回った。平均無解答率が全国平均より非常に高い事が本校の課題であったが、年々改善され、全国平均より0.2～1.2pt上回ったものの、概ね全国水準となった。

生徒質問紙調査から、学習習慣、生活習慣及び自尊感情に関わる質問に対する肯定的な回答が全国と比較して高い割合となっているとともに、昨年度の回答割合より高い結果となっている。一方、言語活動・読解力や規範意識に関わる質問に対する肯定的な回答の割合は全国と比較して低い割合となっている。しかしながら言語活動・読解力に関わる質問の肯定的な回答割合は昨年度と比較すると高くなってきている。

## 分析から見てきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕A問題では、全国の平均正答率を2.4pt上回った。A問題は知識を問う問題で、ある一定の知識は身につけていると考えられる。一方、B問題は、身につけた知識を実生活の中で活用する力、問題解決する力などに関わるものであるが、全国の平均正答率を2.2pt下回る結果となった。また、無解答率も記述式の問題では高くなっている。今回の調査から課題となるのは、資料等を活用して自分の考えを述べる力が弱い点である。

〔数学〕A問題では2.8pt、B問題では5.7pt全国の平均正答率を上回った。A問題においては「資料の活用」の領域を除くすべての領域で全国平均を上回った。証明に関する問題においても正答率が高く、筋道を立てて論理的に考える力が定着してきていると思われる。B問題では「資料の活用」を含むすべての領域で全国平均を上回る結果となり、これまでの学習で、思考力を伸ばす問題に多く取り組んだり、1つの問題に対して多角的に様々な方向から考えたりしてきたことが一定の成果として表れている。

〔理科〕「知識」に関する問題は全国とほぼ同水準であったが、「活用」に関する問題は3.6pt上回った。「知識」に関する問題では、内容が基本的なものであることから、ケアレスミスが多かったのではないと思われる。領域別にみると「地学的領域」の正答率が低くなっており（この傾向は全国も同様）、この領域は生徒の生活に直接影響を及ぼすものであり、学習内容の定着を図る対策が必要である。

質問紙調査より

朝食の喫食や就寝・起床の時刻などについては肯定的な回答割合が全国よりも高く、基本的な生活習慣は身につけていると思われる。

学習習慣については、日常の学習時間は全国と比較して多く、通塾率も高い。家で学校の予習をしていると肯定的な回答割合は40.5%で全国より5.2pt高く、復習については、肯定的な回答割合が47.2%で全国より4.8pt低い。家で学校の宿題をしているとの肯定的な回答割合は92.1%と高い。

考えや意見を発表することは得意であると肯定的な回答割合は57.0%で全国を7.6pt上回っているが、授業で生徒間で話し合う活動をよく行っていたかに対する肯定的な回答割合は52.1%で全国を26.1pt下回っている。

自分には良いところがあるかに対する肯定的な回答割合は66.9%で全国とほぼ同率で、昨年度より9.7pt高くなっており、様々な取組みを通して、自尊感情を高めることができていると考える。

## 今後の取組

国語では、表現力を高めるため、普段から自らの考えを書くという作業を授業で取り入れる必要がある。数学では、数学的な視点で物事をとらえ、説明したり、表現したりする力を育てていく必要がある。理科では、記述式問題の正答率が低くなっており、問題に集中して取り組む力や読解力・表現力を身につけさせる必要がある。

各教科を総じてみると、基礎・基本事項の定着はできてきているもののそれを活用して、課題を解決しようとする姿勢が弱いと感じる。また、意見を発表することを得意とする生徒の割合が高いものの、授業の中で発表力・表現力を高めることが十分にできていないと思われる。

今後は、引き続き習熟度別少人数指導やICTを活用するなどして、個に応じた指導方法の工夫をより一層図り、基礎・基本の定着を徹底させるとともに、資料などを活用して考えを発表する場面や互いに考えを伝えあったりする場面などを取り入れた授業づくりを研究していく必要がある。

また、全国と比較すると家で復習している割合は低いですが、宿題の実施率は高く、学力の定着・向上を図るために効果的に宿題を出し、家庭と協力しながら計画的に家庭学習を行う習慣づけをしていく必要がある。